

今年4月に赴任いたしました、校長の山下と申します。日南振徳高校から参りました。よろしく願いいたします。また、本日、お集まりの皆様におかれましては日頃より本校教育活動に対するご理解とご支援をいただき、厚く感謝申し上げます。重ねて、本日は公私ともにお忙しいところ、本校まで足をお運びいただき、ありがとうございます。4年ぶりの対面による協議会総会でありまして不手際等あるかと存じますので、お気づきの点をご指導いただきますようお願いいたします。

さて、今年度は1年生205名、2年生203名、3年生188名の合計596名でスタートしました。ご存じの通り、学校の教育活動がコロナ禍前の状態に戻りつつある中、今週は宮崎県高等学校総合体育大会が行われ、生徒たちは日頃の練習の成果を発揮し、堂々とした試合をしてくれています。インターハイへの出場権を取った競技はありませんが、九州総体への出場を決めた部があります。

また、今月は第74回宮崎県学校農業クラブ連盟大会が高鍋農業高校を事務局校として開催され、農業の学習で身に付けた知識や技術、研究成果を他校と競い合いますので、こちらの方の準備も進めているところです。

ちなみに令和6年度と令和7年度は宮崎県学校農業クラブ連盟事務局を本校が担当となります。都城市に県内の農業を学ぶ高校生が参集し、宮崎県大会を開催することになります。

ところで、本校は令和5年3月末で創立から107年が経ちました。少子化に伴いまして多くの高校で定員割れが続く中、本校の志願倍率は高く、人気のある高校の1校となっています。ちなみに令和5年度入試におきましては、推薦入試が2.07倍、一般入試1.17倍という競争倍率でした。

この高い競争倍率の背景につきましては、生徒や保護者からの多種多様なニーズに応えられるよう、教職員が様々な業務に日々取り組んでいる結果であると考えています。不本意な入学者も散見されますが、今年3月に卒業した生徒の84.5%が「本校に入学して良かった」と回答しておりますので、教育活動につきましては一定の成果をあげられているものと考えます。

また、生徒や保護者からのニーズだけではなく、地域産業界のニーズにも応える必要がありますが、このことにつきましては、令和3年4月に県教委が定義いたしましたスクール・ミッションに記載されている「農業生産とその関連産業を支える人材育成」、「時代の変化に対応し、持続可能な社会の形成と発展を担う人材育成」であると考えます。

この地域産業界からのニーズに応えるべく、当協議会の全面的な御支援をいただき、平成28年度よりデュアルシステムに取り組んでおりますが、農家出身の生徒が大多数を占めた時代から、非農家出身生徒が9割程度となっておりますので、今後は非農家出身の生徒が農業の魅力を知るとともに、農業や農業関連産業に夢を描けるような積極的な仕掛けが不可欠です。

地元に残る卒業生が多いという特色のある本校といたしましては、関係各位のご支援をいただきながら、地域の農業や農業関連産業への関心を高めさせるとともに、就農や農業関連産業への就職を推進していきたいと存じますので、今後とも本校教育活動への変わらぬご理解とご支援をお願いし、校長あいさつといたします。

本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

令和5年6月1日  
宮崎県立都城農業高等学校  
校長 山下 勉